

「ミーティングハンドブック増刷についての各グループでの話し合いのための資料」

文責 翻訳委員会 兼 書籍発送係 むぎ

2022年に入りミーティングハンドブックの在庫が500冊を切りましたので、ミーティングハンドブックを増刷する必要があります。増刷部数は1,000冊です。

前回の増刷までは、単純な打ち間違いや、裏表紙の振込手数料の情報など、必要最小限の修正をした上で、増刷してきました。また増刷方法を決定する際、一部のグループから、ミーティングハンドブックに収録されている翻訳文献（「共依存症のパターンと特徴」等）の文章自体を変更する意見が出てきましたが、アメリカのCoDA本部から「翻訳文献の文章自体は変更できない」と伝えられていますので、そうした変更はできません。

現時点で分かっている訂正箇所は、17頁の回避のパターンの4つ目の後半部分（「～はまってしまっても」）と、31頁の回避のパターンの4つ目の後半部分の表現（「～はまっても」）の不一致です。これは、原文（英文）に照らし合わせて、後者（「～はまっても」）に統一します。

もし同種の打ち間違いなどの指摘が、各グループから寄せられれば「翻訳文献の文章自体を変更しない」変更である限り、次回の増刷で、英文に照らし合わせて訂正します。今までの増刷でも、そうしてきましたし、そのような変更には反対意見はありませんでした。

その際に、上記の箇所の訂正方法のように、これまでに印刷してきたミーティングハンドブックを大きく変えないでも使い続けられるよう、できるだけ訂正方法を工夫します。

なお、こうした変更は、前回の増刷時に、1頁につき1000円（税抜）かかっていました。したがって上記の変更と、裏表紙（増刷年月日）の変更だけでも、おそらく2000円程度、修正費用がかかります。

増刷の費用全体では、前回の2019年の増刷時に、144,100円かかっていますので、この3年間で、本文や表紙に用いる「紙代」やインク代などに大きな変化がなければ、同じ程度の増刷費用がかかると予想されます。前々回と前回の増刷の間で、紙代の値上がりがあり、数千円、費用が増えていますので、今回も、そのような費用の増加が、あり得ます。

前回まで印刷をお願いしてきた印刷会社による増刷費用の見積もり額は、変更箇所が確定すれば、全体会議および各グループに、お伝えします。

ミーティングハンドブック増刷に関しては、次回の全体会議の前に、いつものアンケート（質問）フォームで、各グループの意見をお聞きます。この資料は、この件について各グループで話し合う際に、参考にして下さい。

それでは、伝統2の「グループの良心」による話し合いを、よろしく願います。